

さくらの恋愛経歴レポート

こんにちは、さくらです。

あなたは自分以外の方がどんな恋愛をしてきたか？
を知りたいと思ったことはないですか？

私は恋愛ドラマにはあまり興味はありませんが、他人のリアルな恋愛などは興味があります。

もしかすると、あなたも同じようなことを思っているかもしれないと思い、私が今までどのような恋愛をしてきたかを簡単にですが、このレポートに記したいと思います。

なお、この話で出てくる男性の名前は仮名とさせていただきます。

では、まずは私が幼児の頃。

保育園の頃の私は母曰くモテていたらしい。

人生3回しかないと言われるモテ期が早々に訪れていたらしく、保育園の男の子から4人ほど告白を受けていたとのこと。

そんな記憶はないけど、昔の写真を見れば、自分で言うのもあれだけど、私かわいい（笑）

母親が私の長い髪をセーラームーンのようなヘアゴムを使って束ねていて、いかにも女の子という感じが男の子にウケていたのだと思う。

しかも、なぜかあの頃は目も大きくてキラキラしていた。なぜ今はこんなサイズなのだ・・・？

4人もの男の子から愛の告白を受けた私が選んだの

は、はると君。いわゆる初恋ですね。

はると君のことは覚えていて、凄く優しかったイメージです。

ませていた私は「はると君、大人になったら私と結婚して？」と逆プロポーズ。

答えはOK！幼児ながらめっちゃ嬉しかったな。

でも、お互い住んでいた地域が少し外れていて、小学校は別々になったことを期に、最初の恋も終わりました。

離れてしまったとはいえ、人生上々の恋愛スタートですね。

でも、小学校から中学校の頃はイマイチな期間でした。

私が小学生になって恋をしたのは 4 年生の頃で、クラスで 1 番に背が高かった健太君です。

前々から気になっていたのですが、初めて同じクラスになったことによって、より気なる存在となり、いつも健太君を目で追っていました

というのは、健太君は運動神経がすごく良くて、走りが早い、ドッジボールやサッカーも上手で自ずと目立つ存在。他の女の子もよく話題にでる男の子でした。

私は健太君かっこいいなー！仲良くしたいなー！いっぱいお話してみたい。と思いがどんどん強くなってきたのです。

私は当時、好きな男の子を平気で誰にでもいうアイア

ンハートの持ち主で、よく友達に健太君が好きということ話を話していました。

そのことはあっという間にクラス中に知れ渡り、健太君は周りの男の子に冷やかされていたのです。

「健太～、さくらがお前のこと好きなんやって、つきあったらええやん！ラブラブやな～」

「うるさいわ！アホ、そんなんするわけないやん！俺は別に何も思っていないわ！！」みたいな感じで。

私は「何も思っていない」という言葉にへこみながらも、友達から「照れているだけちゃう！？健太君もさくらのこと好きかもよ」

というアドバイスをもらい、すぐにポジティブにチェンジ。

意を決して、バレンタインデーにチョコレートを渡すことに。放課後に健太君が 1 人になったときを見計らって、チョコを渡したのです。

「あの、コレよかったら食べて」と言って差し出した瞬間、クラスの男の子数人がその場を通りかかったのです。

私が健太君にチョコを差し出しているところを見た男の子は「ヒューヒュー熱いなー」と冷やかし発言。

健太君は「こんなん要らんわ！」と私が渡したチョコを突き返して走り去ってしまったのです。

告白の瞬間をクラスの男の子に見られた拳句、見事に撃沈。

悲しさと恥ずかしさで、そのときの私は消えて無くなりそうでした。

さらにショックだったのが、健太君にチョコを渡したのは私だけでなく、数名いたそうですが、受け取ってもらえなかったのは私だけ……。

今思えば、小学校の頃の男の子は恋愛に対して恥ずかしい、という思いが絶対にあるし、そのことを周りに冷やかされるのは特に嫌だったから、私を突き放したのだと思います。

とは言っても、幼いが為に、そんな分析できない私は、当時は凄く辛かったし、積極性みたいなものが少し失われました。

こんな感じで、小学校の時代は失恋し、少し苦い思いがある恋愛となりました。

ちなみに、振られた後は健太君に対する恋心は徐々に薄れ、中学も同じだったのですが、全く関心がなくなっていました。

小中の頃、特に小学校の頃は、男の子がモテる基準として、運動神経が良いという点が凄くフォーカスされます。

ですので、後々になって健太君の顔はあまりタイプではないと気づいたことで熱量も下がり、最終的には「なぜ、好きになったんやろう？」みたいになっていました。(笑)

次に中学校の頃の私ですが、健太君との一件から自信がなくなり、恋愛に後ろ向きになっていたのです。

私が男の子から好意を持たれるなんて無いんだろうな・・・という思いがあった。

だから、中学校の頃はいいなーと思う人がいても、そこで気持ちを押さえて、積極的にコミュニケーションをとろうとはしなかったのです。

代わりに、その頃は部活動であるバスケットに熱中していました。

県内でもそこそこ強かったので、練習時間も多くて勉強との両立が大変だった。

だけど凄く充実して楽しかったし、レギュラーにも選ばれたから、それが嬉しくて「もっと上手になりたい！」と思って、練習漬けの日々でした。

だから中学の頃の恋人はバスケットでしたね。（苦笑）

次は高校の頃の恋愛。

高2年になって初めて彼氏ができました！！

彼氏の名前は修平くん。

年齢は同じで、スラっと背が高く、顔もイケメン、勉強もスポーツもできる秀才タイプでした。

出会いはバイト先の飲食店。

高校は自分の時間が欲しいのと、バイトをしたかったので、特に部活に入らなかった。だから修平くんとは出会えたのです。

最初はイケメン君やなあという印象で、それだけでしたが、お互いバスケット部だったこともあり、よく話すようになりました。

といっても、修平くんは単に私となら喋り易いから、喋っているだけであって、私に好意を持っているなんて思っていなかった。

小学校の苦い思い出から、私なんかには男の子が興味を持たないと思い込んでいたから、そういう風に解釈。

だから私も彼のことを異性として意識はしていませんでした。

ところが、そのバイトをし始めてから4か月後くらいに、バイト上がりに途中まで一緒に喋りながら帰っていると、修平くんの方から、

「今、誰が付き合っている人いる？」

「え！急に何なん？ 別にそんな人おらんよ～」

「修平くんは彼女おるんやろ？モテるやろし」

「いや、あの～ 実は俺、さくらちゃんのが好きです。よかったら俺と付き合わん？」

青天の霹靂すぎてマジでビックリでした。

「え！私と？冗談やろ」

「いやマジやって！どうかな？」

「ドッキリ！？」

「違うって！」

「・・・急すぎてビックリ。私でいいの？」

「うん！好きです。付き合ってください」

「じゃあ、こんな私だけお願いします。」

なぜか、ここで握手。(笑)

こんな感じで、私の初めての交際が開始となりました。

修平くんみたいな素敵な人と付き合えるなんて全く考えていなかったら、凄く嬉しくて有頂天でした。

それに、今まで女性として自信がなかったけど、このことで「こんな私でも魅力があるんだ！」と思えるようになったのです。

初デートは映画を見に行きました。

確か「ナルニア国物語」の2章だったと思うけど、もう待ち合わせからドキドキで、内容なんて覚えてなかった。。。

終始、手に汗をかくぐらい緊張して、背筋がピンってなったままで。。カチコチの初デートでしたね(笑)。

「付き合う前は普通に接していたのに、恋人という立場だと、こうも違うのか！？」とそんな自分に笑えてきたのを覚えています。

その後デートを重ねることに緊張も無くなって、心からその場を楽しめるようになりました。

修平君は、こちらを引っ張っていく男らしいタイプでしたので、何をするにも頼もしかったですね。

あと秀才だったので勉強もよく教えてもらいました。私が通っていた高校は、当時の偏差値が50くらいの可もなく、不可もなくみたい学校でしたので頭が弱かったです。

一方の彼氏は、偏差値60オーバーの進学校に通っていたので、学力に格差があるカップルでした。(笑)

勉強嫌いな私はテスト期になると、いつも修平君に勉強を教えてもらっていたのですが、そのことを修平君の親は嫌がっていましたね。

おそらく息子の足をひっぱるな的な感じだったと思います。

よく、修平君のお母さんから「お互いにもうそろそろ受験なんだから、お付き合いは受験が終わった後にすれば？」みたいなことを言われました。

確かに、あの頃の私は化粧もガンガンしてギャルっぽい感じだったので、「こんな小娘と息子が付き合うのは悪影響」だと思われても仕方なかったと思います。

でも、修平君が「別にええやん！？しっかり成績も残しているから、とやかに言われたくない！」とお母さ

んに反論し、私に「何も気にするな」って言ってくれたのです。

超嬉しかったですね。私はその言葉に甘えて受験の直前シーズンに突入しても、修平君にベッタリ教えてもらいました。

でも修平君の大学受験の希望校はMARCHでしたので、私に勉強を教えている余裕はなかったと思いますが、いつも丁寧に教えてくれました。

私は到底MARCHに行けるような学力は持ち合わせていなかったとはいえ、修平君と離れたくなかった為、東京にある大学を受験しました。結果、二人とも希望校に合格。

東京という見知らぬ地で過ごす不安はありましたが、これからもずっと修平君と一緒にいれることが嬉しかった。

そして大学生活が始まったのです。ところが私は修平君とは高校の時のように頻繁に会うのが難しくなりました。

というのも、東京の大学に行くには女子寮に入ることと、学費から生活費までの全ては経済的に出せない。

だから、最低でも月7万円を自分でバイトして稼ぐことが両親の条件だったので、寮の門限で&バイトだらけでなかなか修平君に会えず・・・。

だから地元にいるときに比べて、会う頻度は大きく減りました。

それでも 1 回生の頃は修平君も時間を見つけては、少しだけしか私といれないけど、わざわざ会いに来てくれたのが嬉しかった。

私も月に 2 日くらいは長時間のデートできたり、お互いのスケジュールがあったときは、寮から外出許可をもらって、修平君のマンションにお泊りするのが本当に楽しみでした。

ところが 2 回生の中頃から、修平君からの私に対するメールや電話が減ってきました。また私からの連絡も取らないことが多くなりました。

またデートのお誘いも少なくなり、また私が誘っても「バイトあるから、サークルの飲み会などの理由で断られることも増え、デートの頻度が下がってきたのです。

そんななかデートしたときは、何だか普段と違う感じ
というか、私に対して優しい・・・違和感を覚えると
同時に「浮気している!？」

まさかと思いながらも、久しぶりにお泊りした日に、
修平君がトイレにいったときに、ふいに目についた彼の
携帯。手にとってみるとメールのマーク。

ダメだと思いながらも受信箱を見ると、美雪という名
前から受信メールがたくさん。その1つを開いてみる
と「今度の日曜日だけど空いている?どっか遊びに行
こうよ」との内容。

頭が真っ白になりました。そして修平君が戻ってきた
ので「美雪って誰?」と聞いたところ、「勝手に携帯
を見るなー!」と言われた同時に、顔を思いっきりビ
ンタしてきたのです。

「痛い！信じられん。浮気してるやろ！！」言うと「何で勝手に携帯を見るんや！」と言ってきて、再び私にビンタ。

私もメチャクチャ頭にきて、とっさにテレビのリモコンか何かを持って、相手の急所を思いっきり殴り返しました。

別に急所を狙っていたわけではありませんが、相手が立って、私が座っている状態だったので、思わずそこを思いっきり反撃。

相手が悶絶しているところ、私は「本当にサイテー、もうこれで私たち終わり！」と喋って部屋を出ていきました。

浮気された上に問い詰めたら女性に暴力を振ってきた。その一瞬で彼に対する気持ちが冷めたと同時に、

嫌悪感も覚えたのです。

その後、相手から何度も着信があって無視していると、次は何十通もの謝罪や言い訳のメールが届きました。

私の中では男性が女性に暴力を振うなんてマジであり得ないことですので、すぐに着信拒否の設定。

100年の恋も一気に冷めるとは、正にこのことで本当に心から嫌いになりました。もちろん未練なんて一切なかった。

今思い返しても腹立たしい！

でも、「将来は必ず結婚しよう！」と言われていた相手に浮気をされたことは本当にやるせなかったです。こんな感じで私の初めての交際は終わったのでした。

そして次に私がお付き合いしたのが、友達の主催で開かれたバーベキュー大会で知り合った和也君。私が4回生の夏頃でした。

和也君は社会人で私より2つ年上。愛想がとてもよく、話が上手で、気遣いができて、明るくてノリがよくて優しい。とにかく会話するのが楽しい人でした。

インテリア関係の営業をしていて、トップクラスの売上を上げているというのも納得できました。

年上で社会人だからなのか、いつも余裕があるように感じました。

お付き合いした経緯はバーベキュー大会のときに、ふと目があって私に笑いかけてきたのです。

そして「こんにちは！学生さんですよ？どこの学校？」みたいな感じで、すごく愛想がいい感じで接してくれて、そこから話が弾みました。

メール交換をして、その後日に和也君からメールが来て食事のお誘い。

バーベキューでの和也君とのおしゃべりは本当に楽しかったので、喜んでOKを出しました。

その食事の際も、やっぱり喋りのセンスがあるというか、私の話も凄く聞いてくれるし、その返しとかも面白いし、色んなことを知っているし、とにかく会話が楽しい。

3度目のデートの帰りの際、「俺さくらちゃんのこと好きになった。俺と付き合ってみる！？」と言われ、

迷わず OK したのです。

前の彼氏が俺についてこい系に対して、和也君はレディファースト系。そのギャップも新鮮だった。私は運命の人と出会えることができた！とっていました。

・・・しかし、この恋も長くは続きませんでした。

お伝えした通り、和也君は本当に愛想がよくて、話が上手で、場を盛り上げるのが上手ですし、彼自身も人と喋るのが大好きな人。

そして博多出身ということで飲み会が大好き。1 回あたりの飲み会も平日なのに余裕で 2 時間とか超える感じ。休み前とか土曜日とかだと、午前さまは当たり前。

営業という職業柄 & 飲み会が大好き & 愛想がいいの

で飲みには誘われ易い、ということもあって、飲み会やパーティなどの場に参加することが多々ありました。

なので和也君から、仕事の合間に電話は掛かってくるものの、私はその時は授業中やバイトだったりして、なかなかとることができない。

そこで、私が落ち着いている夜の時間帯に電話するものの、飲み会などの最中なので気づかれないことが多い。

また、でてもガヤガヤしては落ち着いて話ができない。それならばメールだけでもと思って送っても、タイムラグがかなりある。

休日もお互いの時間がなかなか合わせ辛くて、デートは月に2回くらいだけ。

デートの回数は仕方がないとしても、私は5分くらいの電話でもいいから、毎日コミュニケーションをとりたい。恋人なんだから繋がってほしい！という考えです。

でも、和也君はいつも飲み会。仕事の付き合いがあるというのは頭では理解していました。

でも、日々のコミュニケーションが少ないことに、私のなかで徐々にフラストレーションが溜まってきたのです。

それがとうとう爆発したのは、私が就職をし始めた頃。やっぱり緊張や不安が大きく、彼氏に色々聞いてほしいのに、当の本人はやっぱり飲み会などでゆっくり話せない・・・。

私って寂しくて仕方がありませんでした。それでもあ

る日、今日こそは、ゆっくり話せるかなと思いTEL。
繋がりましたが、やっぱりガヤガヤ。

「もしもしお疲れ！今、取引会社の人と飲んでいるから、早めに終わったら折り返すよ」と彼が言っている
近くから、数人の女性の声が聞こえてきたのです。

すごくイラついたので「もう何でもいいよ！」とだけ
伝え、一方的に切断。私は彼が静かな場所に移動して、
すぐに折り返し電話してくるものだと思っていました。
た。

ところが、その日はメールの1つもなかったのです。
私はそのことにショックを受けて、深夜に明かりをつ
けずに泣いていました。

次の日の夜に和也君から電話が掛かってきました。

「いつもゆっくり電話もできずにごめんね、最近の本

当に付き合いが多くて、これからはなるべく断るようになるから」

私はその言葉で沈んでいた気分が晴れ、その後は私が聞いてほしかった話を和也に聞いてもらいました。

いつも通り、彼は私の話を丁寧に聞いてくれて、ときにはジョークなどで私を思いっきり笑わせてくれる。

また新社会人になった私が抱く不安なども丁寧にアドバイスしてくれて、凄く勉強になったし、頼もしいと感じた。

気づけば 2 時間以上話していた。やっぱり和也君との会話は楽しいし、心が落ち着く。やっぱり私は和也君のことが好きなんだと思いました。

しかし、その後は以前よりもさらに会えないし、電話

などで会話できる日も少なくなりました。

和也君にもっと話したいし、デートもしたい、と伝えるも、ほとんど変わらず・・・

だんだんと私の中で、彼とコミュニケーションをとれないことが我慢できなくなってきました。

そしてメールで「私より周りの付き合いの方が大事なの？もっと私のことも気にかけてよ」と伝えたのです。

和也君からの返信は「ごめん。もっとさくらのことを大事にするよ」との内容。

でもその言葉とは裏腹に、このやりとりをきっかけに、彼の私に対する対応がギクシャクするようになりました。和也君の心が私から離れているように感じました。

そして最終的には「別れよう。今の俺ではさくらを悲しませることしかできない。本当にごめん」と別れを告げられたのです。

私はこれから先も、こんな寂しく辛い思いをするのは嫌だと感じ、別れを受け入れました。

和也君と一緒に居て、心から楽しく思えたのは確かだったので、「今までありがとう。本当に楽しかったよ！」と最後は笑顔で別れました。

別れた後はもっと悲しみの感情で一杯になるかな？と思ったのですが、むしろ清々しい気持ち。

素敵な人と交際できて本当に良かったと、なぜか自分のなかですぐに吹っ切ることができました。

このようにして1年と少しという短い期間でしたが、私の2回目の交際は終わったのです。

そして次にお付き合いするのが、生涯を共にする旦那さまとなる隼人君。

初めての出会いは和也くんと別れて半年くらいした頃、友人の紹介、いわゆる合コンで知り合いました。

顔が小泉孝太郎に似た感じで、身長は高くてスラッとして、思いっきり私のタイプでした。

喋ってみると明るくてすごく気さくな感じで、誰に対しても対応がうまくて、いれば自然と場が和むような人。

和也君とタイプの的には似ているけど、隼人君の方は体育会系の要素が強く男らしい感じですよ。

初めて会った時は、みんなとの会話が盛り上がって、あまり二人で喋る時間はなく終わりました。

もっと隼人君と喋りたいと思っていたところ、帰りで私にこそっと「良かったらメール交換しない？これ僕のアドレスです。」と紙を渡してくれたのです。

家に戻って早速メールをしたところ、食事のお誘いを頂き、一気にテンションUP。

そして実際に2人で食事に行ったとき、楽しすぎてあっという間に時間が過ぎました。

帰りの電車で、私が鎌倉に行ったことがないという話をしたので、今度ドライブがてらに鎌倉に行かない？

と次のデートのお誘い。

もちろん私の答えは OK。半月後のその日を心待ちに
していました。

当日、大仏で有名な高徳院や報国寺など色々なスポッ
トを回りました。隼人君が前もってルートを考えてい
てくれていたので凄く快適。

また各場所の解説などもしてくれて、その心使いが嬉
しかった。

最後に由比ヶ浜を二人で歩きました。そこで隼人君は
急に立ち止まって、私に向かって「好きです。彼女に
なってくれませんか？」

今までの誰の告白よりも胸がキュンとなりました。も
ちろん喜んで OK しました。こうして隼人君との交

際が始まりました。

毎日が楽しくて嬉しくて最高の日々。今までお付き合いしたなかの誰よりも、私は愛されているんだなーと思えた。

もちろん私も彼を心から好きだと思えたとし、一緒にいれることが本当に幸せに感じたし、それが永遠に続いていくことを願いました。

しかし、それから約 1 年後、自己紹介のページでもお伝えした通り、私が未熟なせいで別れを告げられてしまうのです。

人ってこんなに涙がでるのか、と思うくらい泣き続けたし、彼氏がいなくなったことに対する不安や苦しみ、喪失感などが、とことん私を襲いました。

これまでに交際した男性と別れたときは、こんな苦しい感情にはならなかったのに、隼人君の場合は明らかに違う。

それだけ私は彼のことを心から惚れていたし、誰よりも愛していた。だからこそ復縁したいと思いました。

修平君と和也君と別れたときは、復縁したいという気持ちが起こることはなかった。それだけ私にとって隼人君はかけがえのない男性だったのです。

あの時、復縁を目指すことを決意して、心からよかったですと思います。だって隼人君と子供と私で過ごす日々は本当に幸せだし、これからもずっと続くのだから。

あなたが復縁したいとまで思っているお相手は、本当に素敵な方なんだと思いますし、あなたにとって大事な人なんだと思います。

そして復縁したいとまで望む男性は、今後は現れない
かもしれません。それだけ特別な人。

でもなかには周りから「復縁は辛い、後ろ向き、恥ず
かしい」といった否定的な意見を言われたことで、「新
しい彼氏を見つける方がいいの方がいいのかも・・・」
などと思い、諦めてしまう方もいます。

もし、あなたが少しでもそのような気持ちを持っている
のなら、今すぐ捨てるべきです。

本当に一緒にいたいと願う男性と交際する事が何よ
りも幸せなんですから。私は誰が何と言いようが彼氏
の事が好きだったからそれに従いました。

私は好きな人と二度と一緒に成れないことの方がよ
っぽど辛いし、妥協して好きでもない方と付き合う方

がもっと後ろ向き。だから私は私の価値観で彼氏を取り戻しました。

あなたも悔いが残らないように、復縁したい気持ちを大事にしてくださいね。その気持ち応援しています。

それでは、私の簡単な恋愛歴でしたが、最後まで読んで頂いて本当にありがとうございました。

PS.

復縁を成功させる為の特に欠かせない記事をまとめました。

↓のリンクからご覧ください。

[復縁のポイントをギュッと凝縮したセレクト記事集](#)